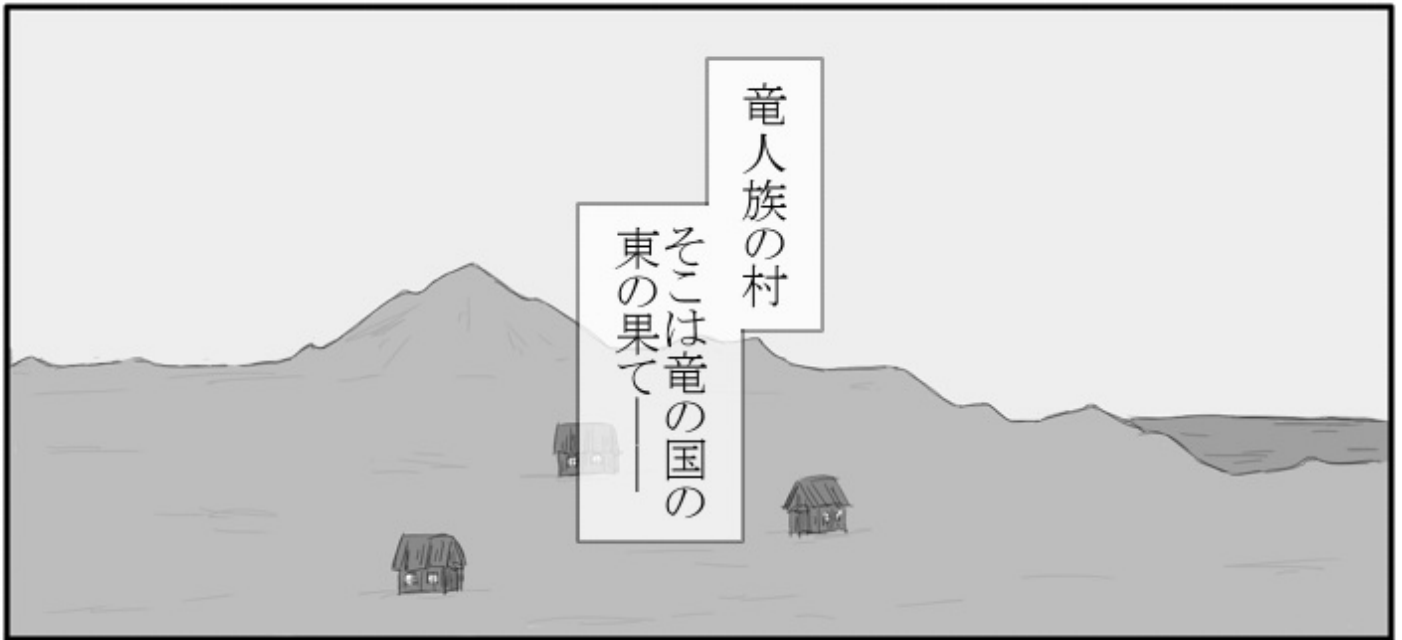
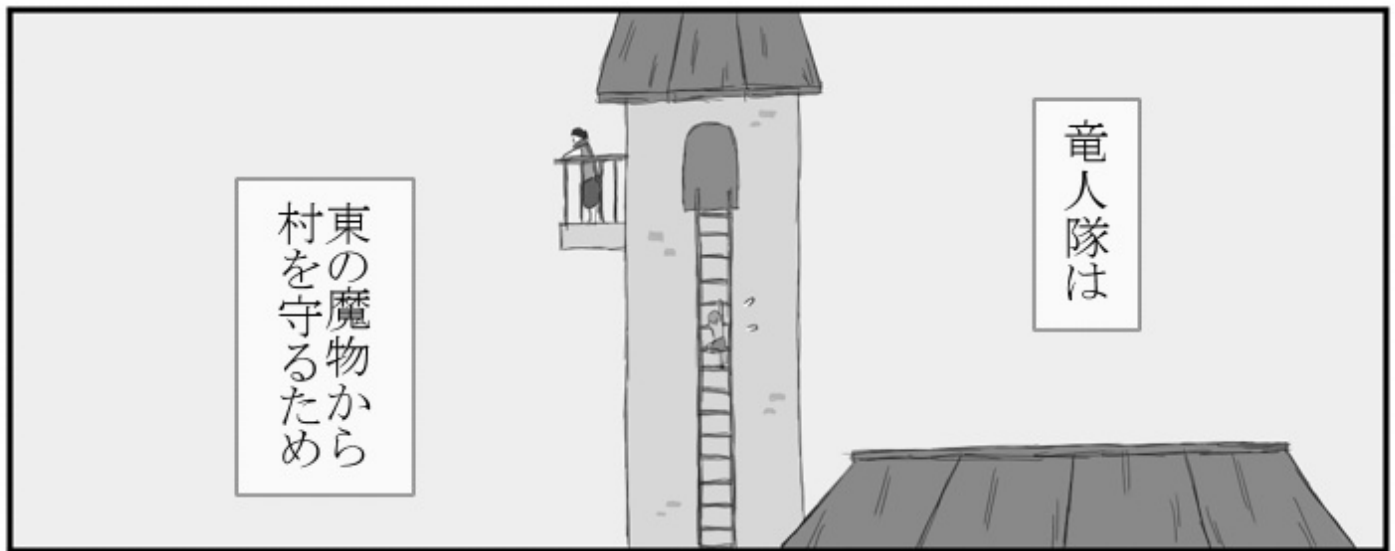
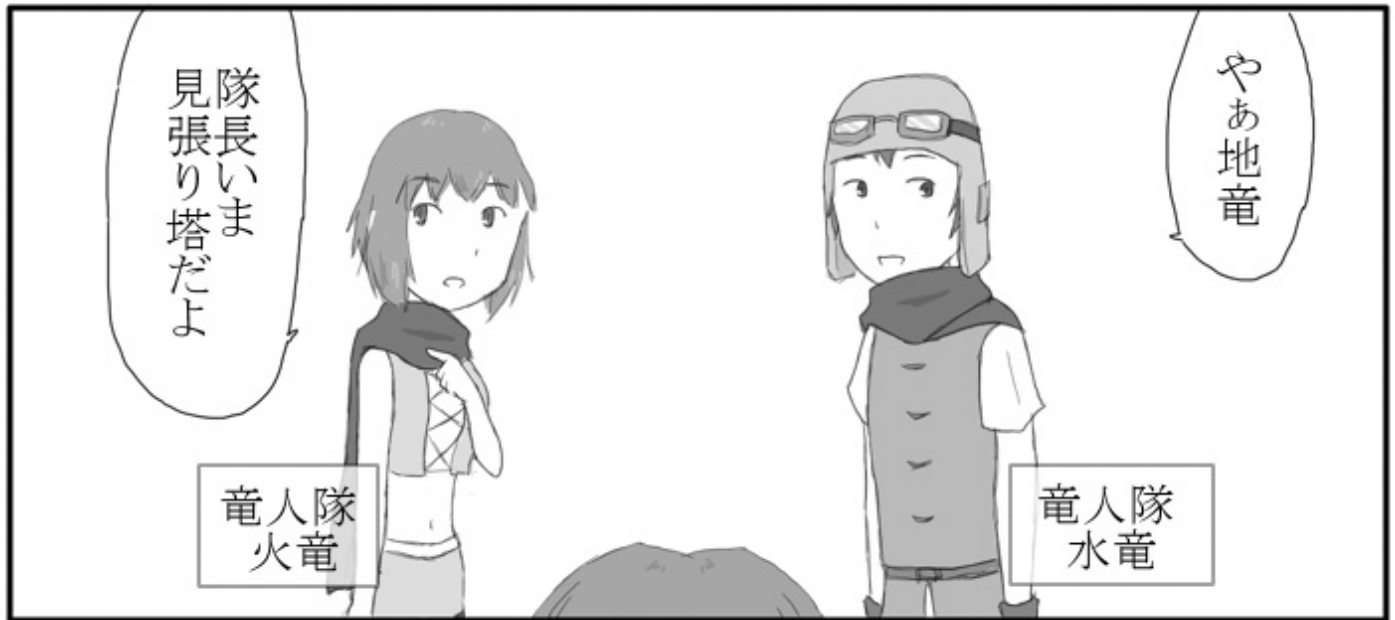




魔法使いと
三人の助手 6

夢使いの物語①

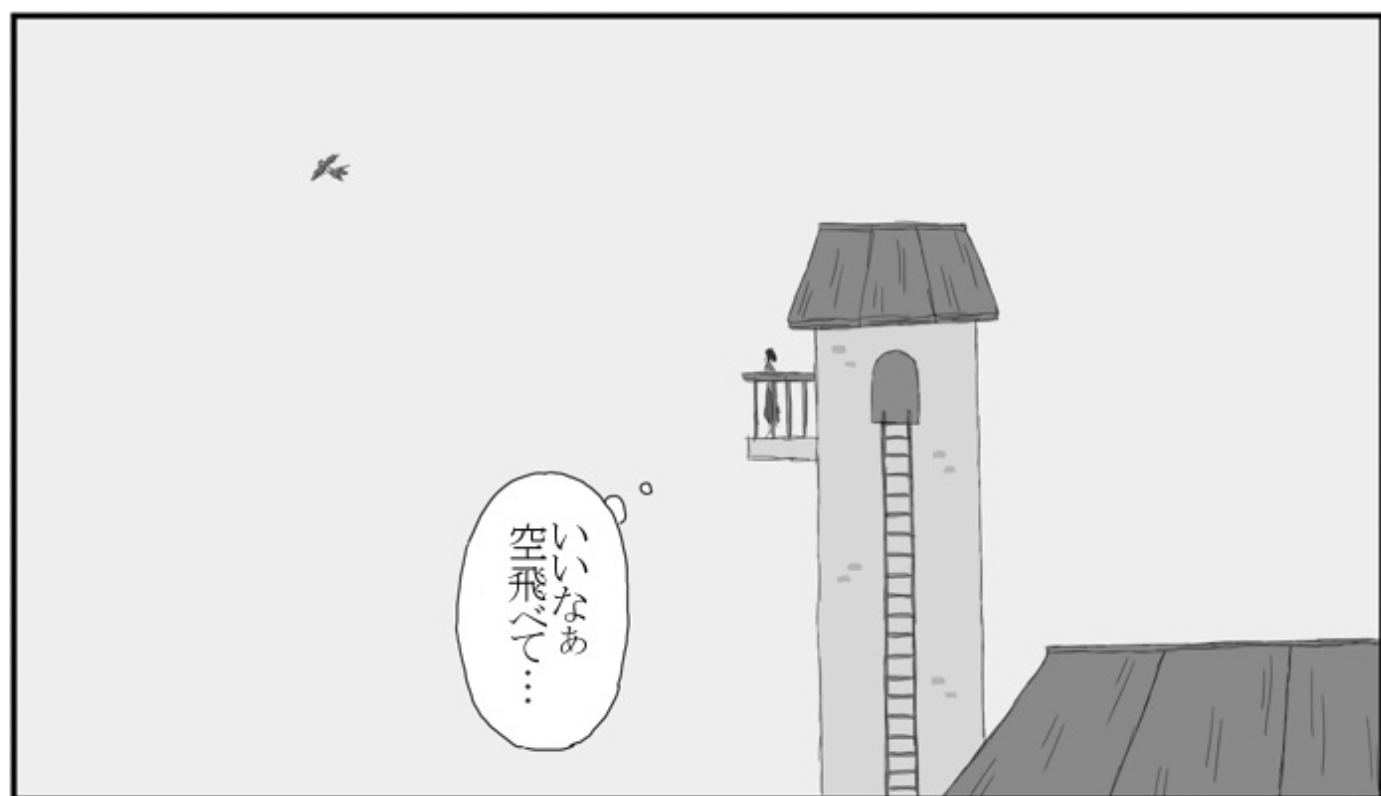


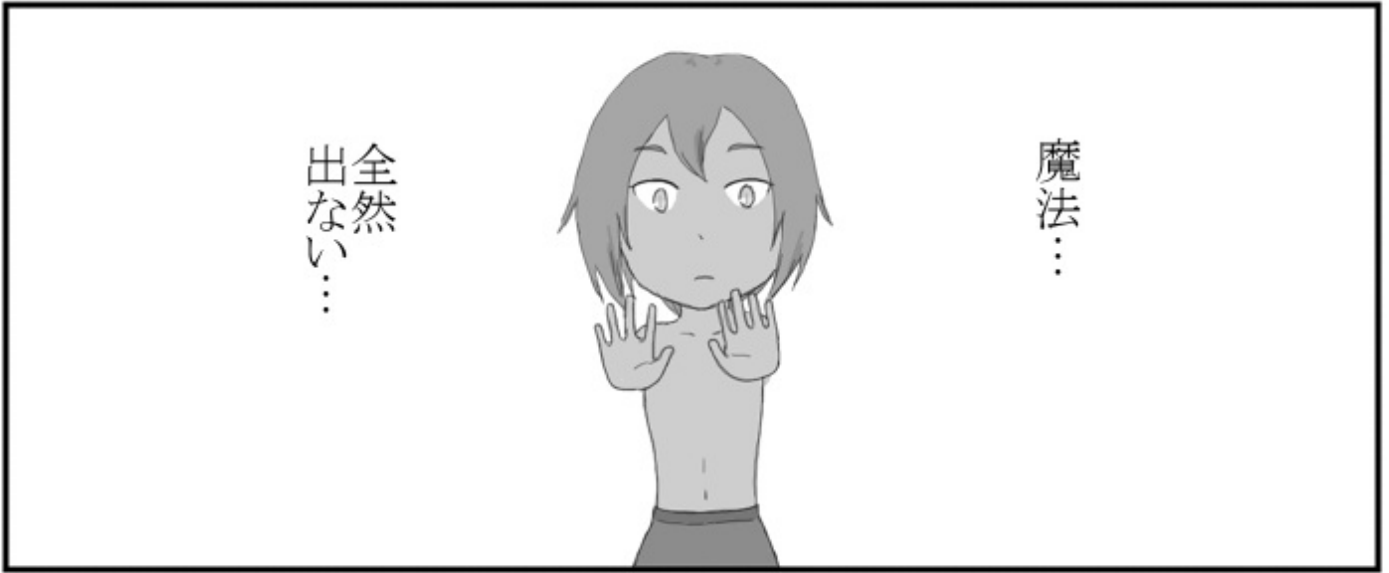
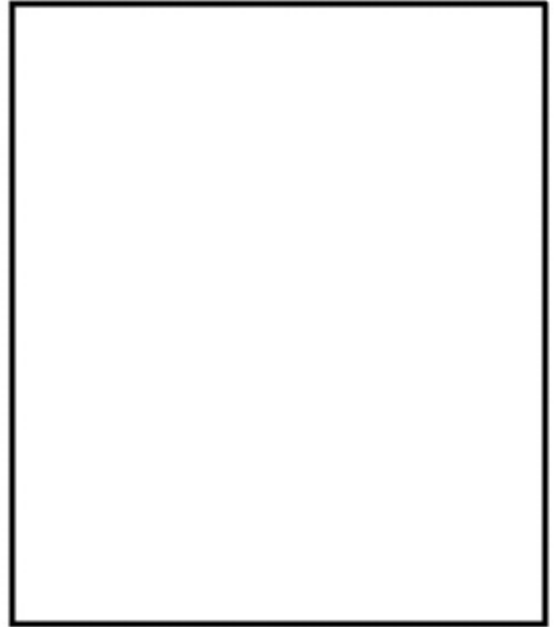
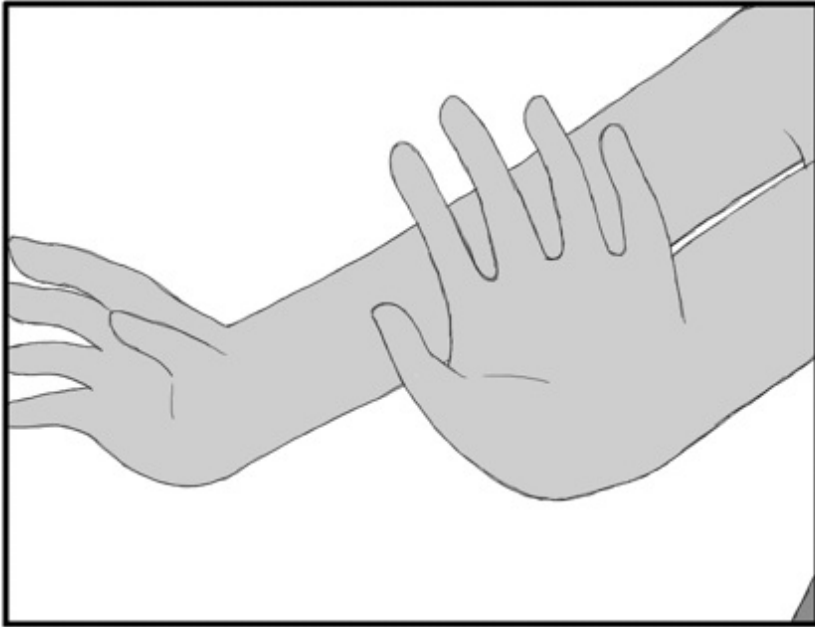












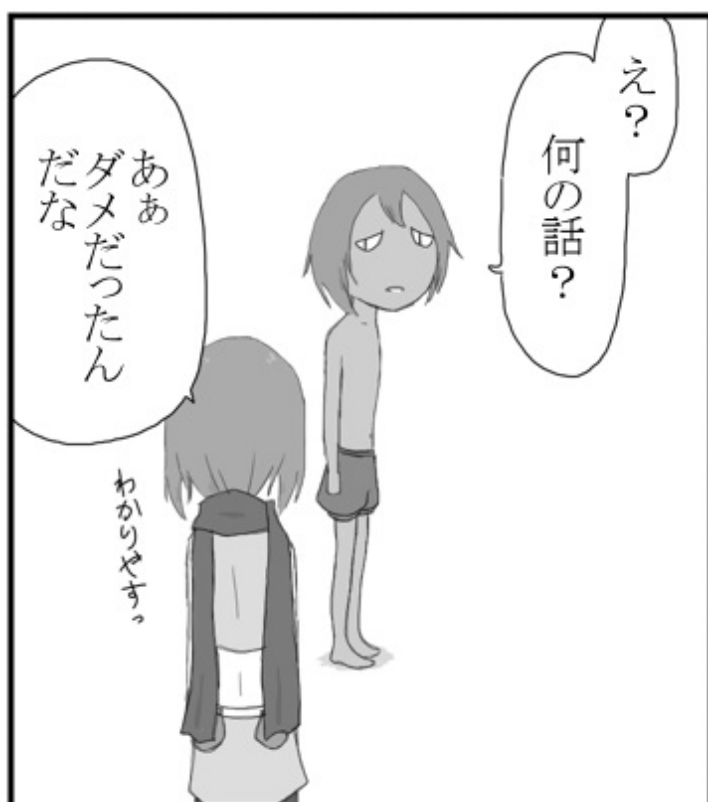
全然
出ない…

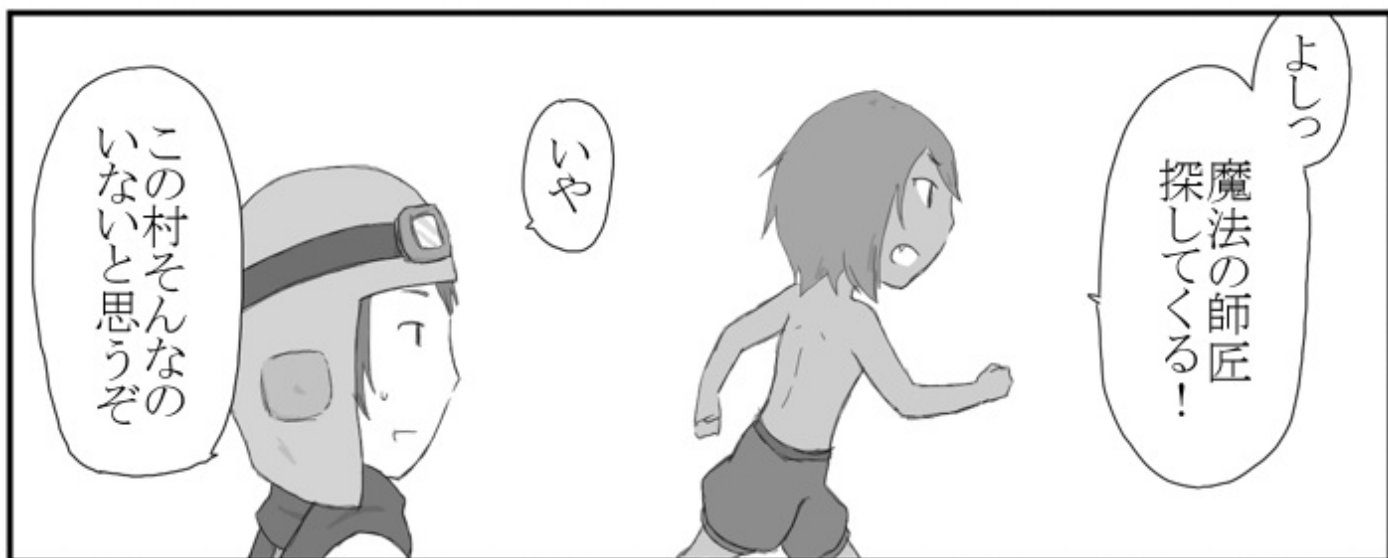
魔法…



何をすれば…

そもそも
魔法の
修行つて





地竜の子よ

今朝見た夢
思い出して…

いや

?
どした?

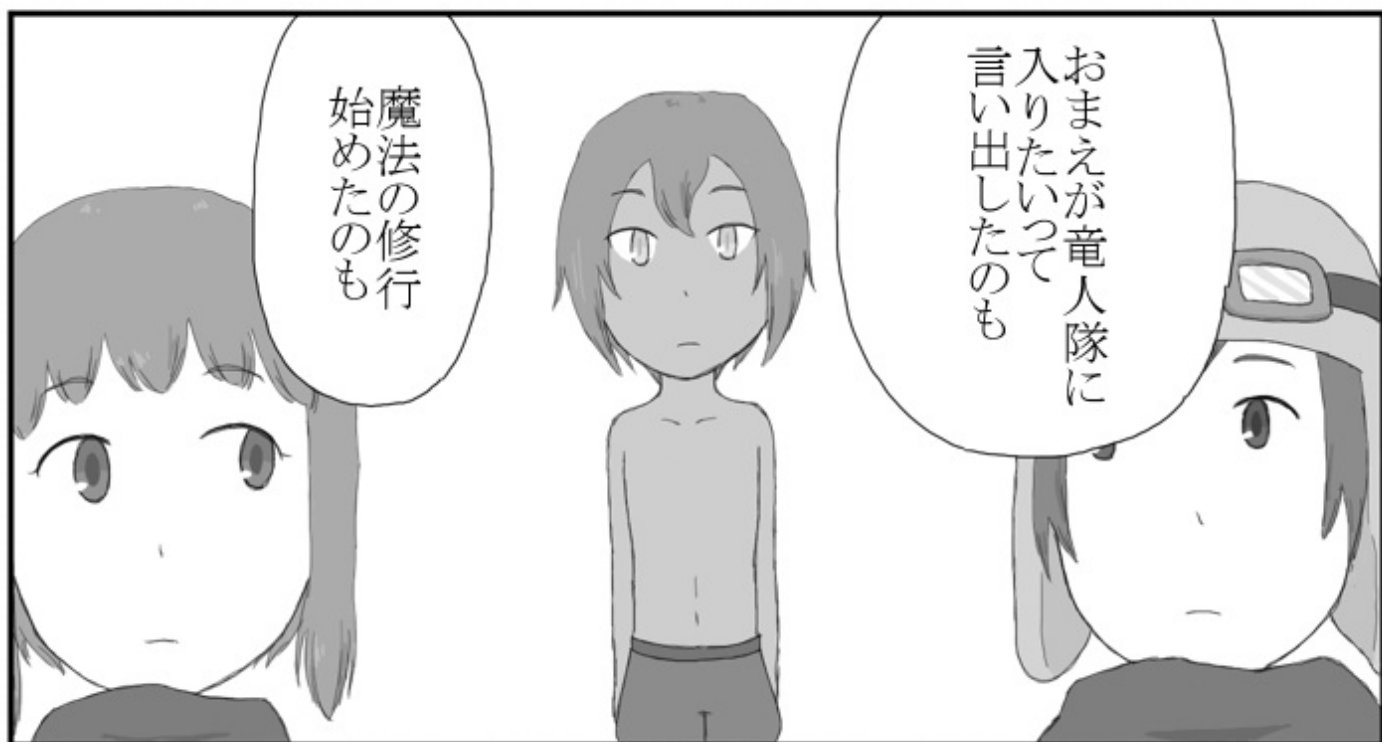
特別な力なの

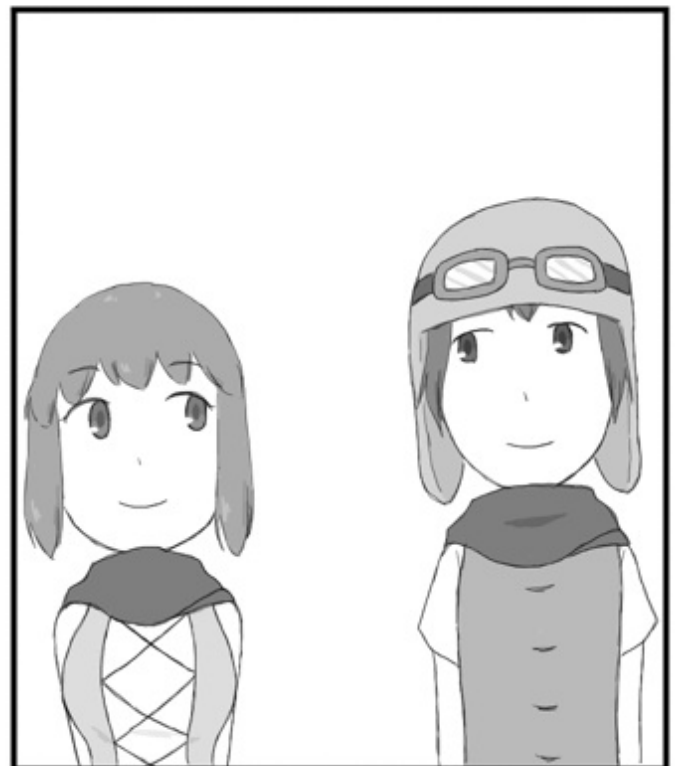
アナタの魔力は

ワタシの館へ
いらっしやい

西の果ての



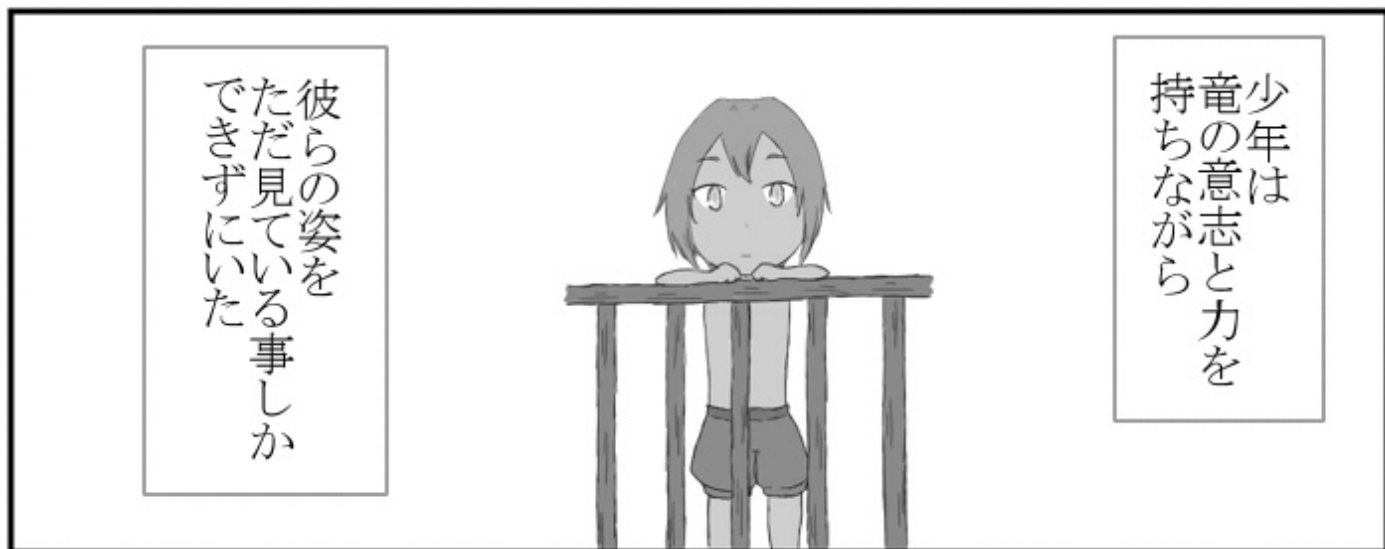






龍の血とともに
その意志を
受け継いでいる

龍人たちも
また



彼らの姿を
ただ見ている事しか
できずにいた

少年は
龍の意志と力を
持ちながら



—その力

ワタシがきつと
咲かせて
みせるわ…

魔法使いと

三人の助手 6

- 竜人隊の日常 -

魔物が来るまでは
基地でダラダラしている。



木毛は魔物の気配を
察知したらちゃんと起きる。



旅立つ日の
朝

寂しいよおおお

ヤッしあああ



少年は

ホームシックに
なった

(まだ
旅立ってない)



うんえんえんえんえん



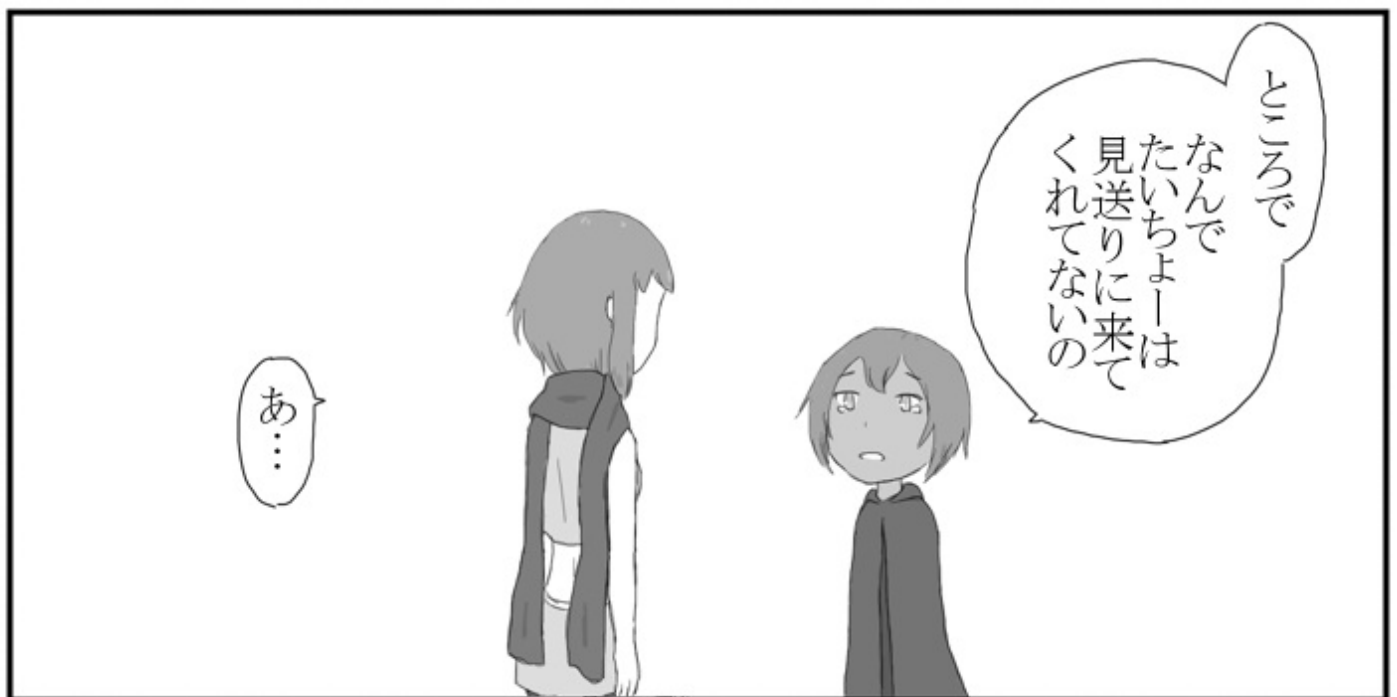
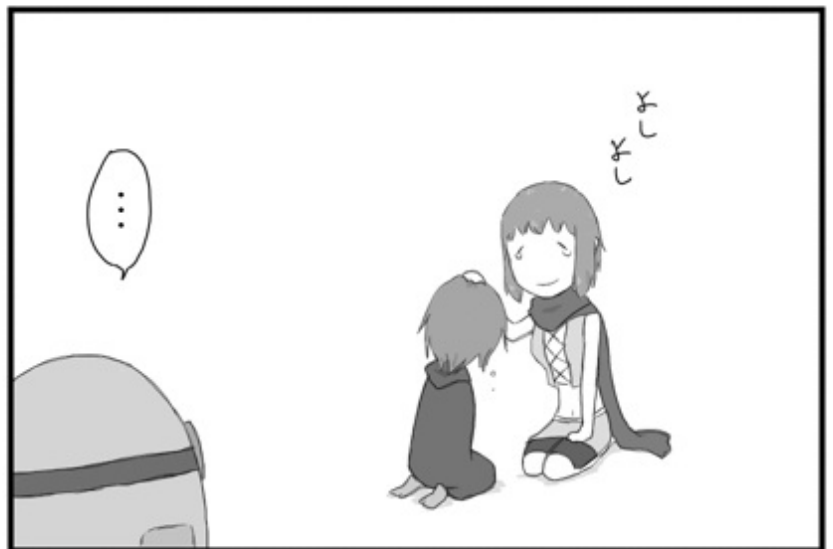
水竜兄ちゃん

ついて
きてよお

ムリだつて

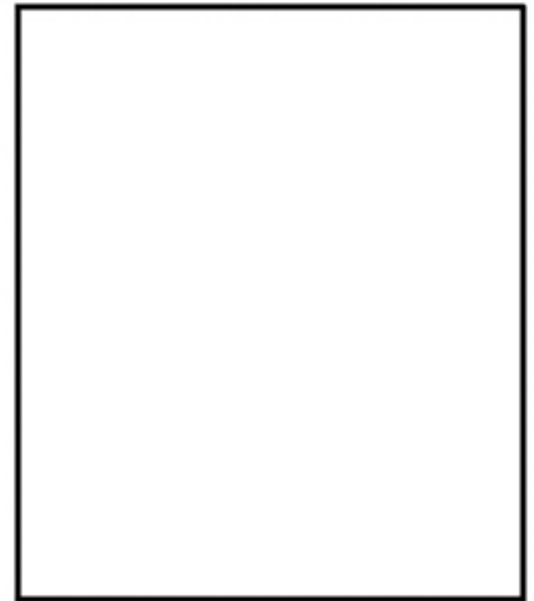
魔物来たら
村守んなきや...







すず
やあ...



!!?

隊長!!!

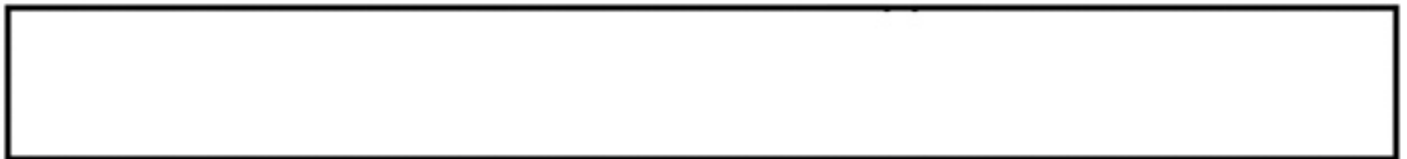
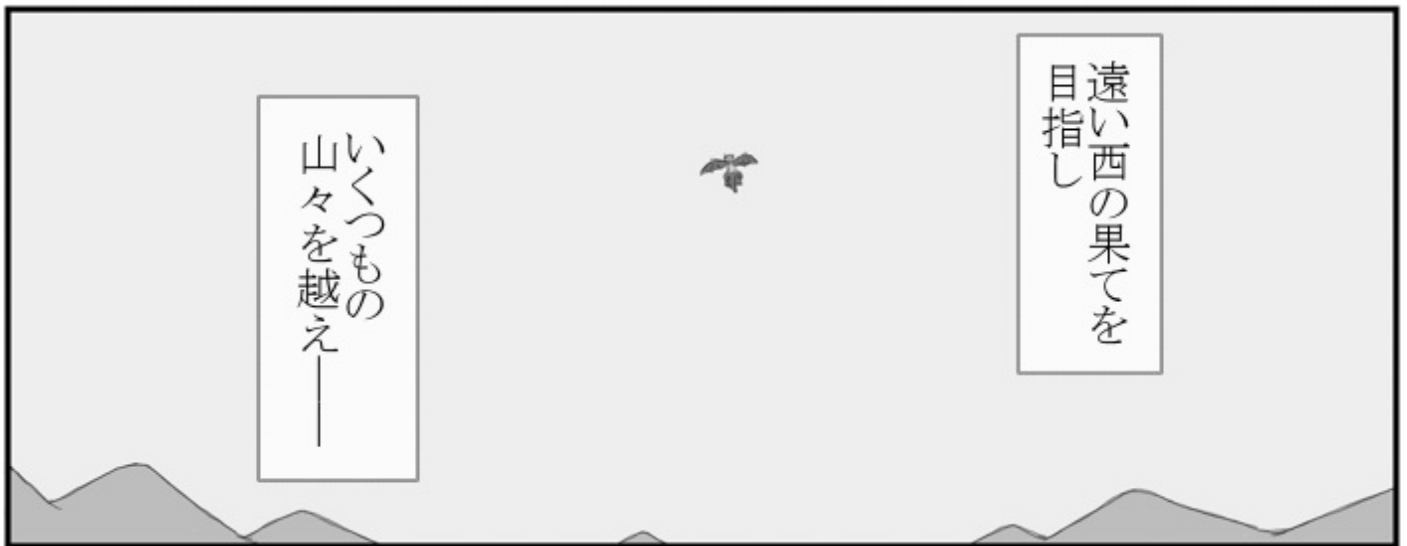


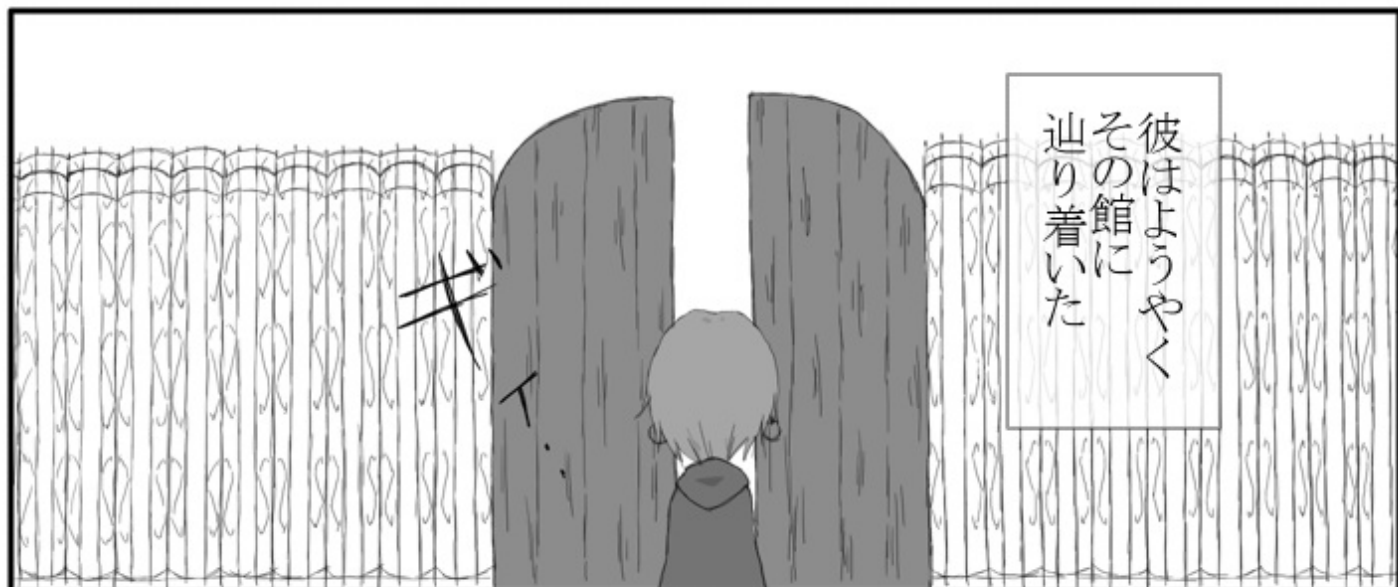
あ
悪い

もう地竜
出発
しますよ!!

!!?じゃ
ないですよ!!







彼はようやく
その館に
辿り着いた



初めまして

アタが
地竜くんね



ボクはまず
何を...

...師匠

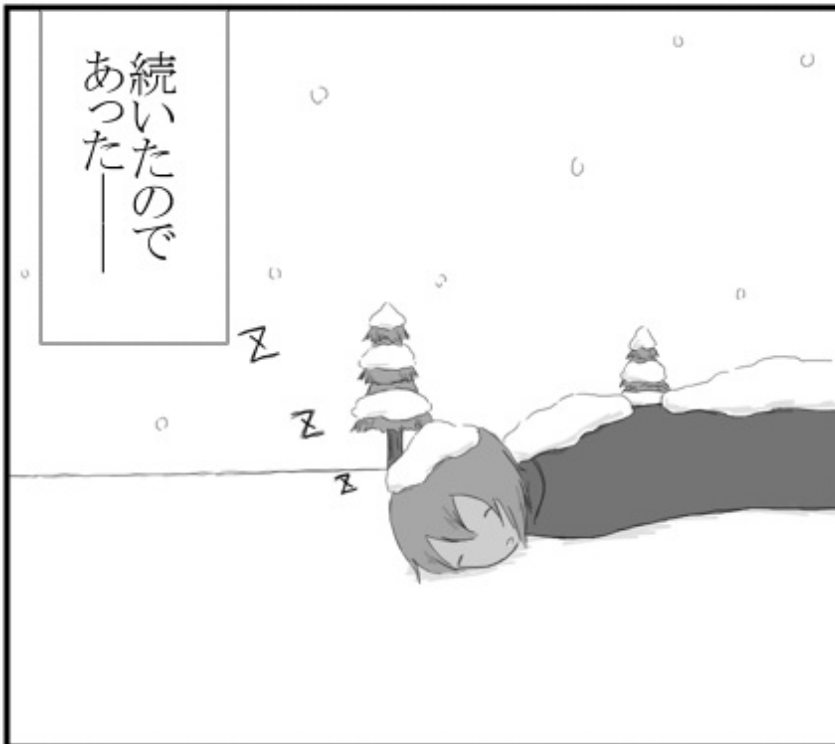


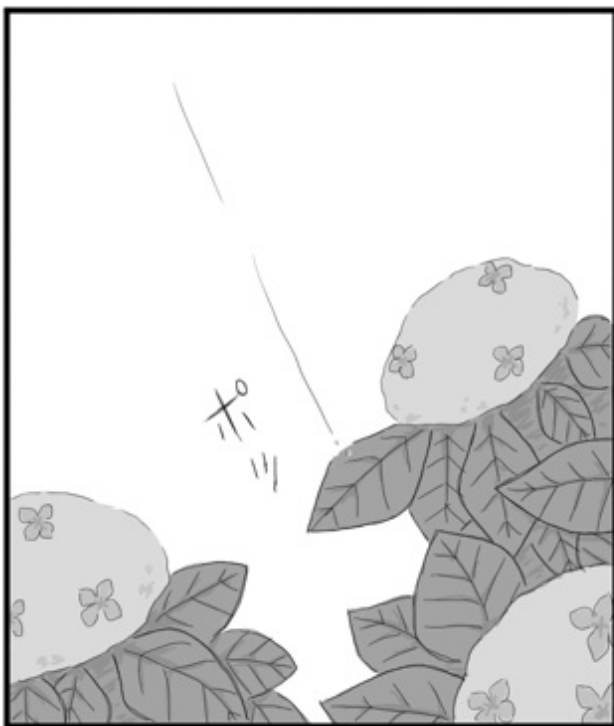
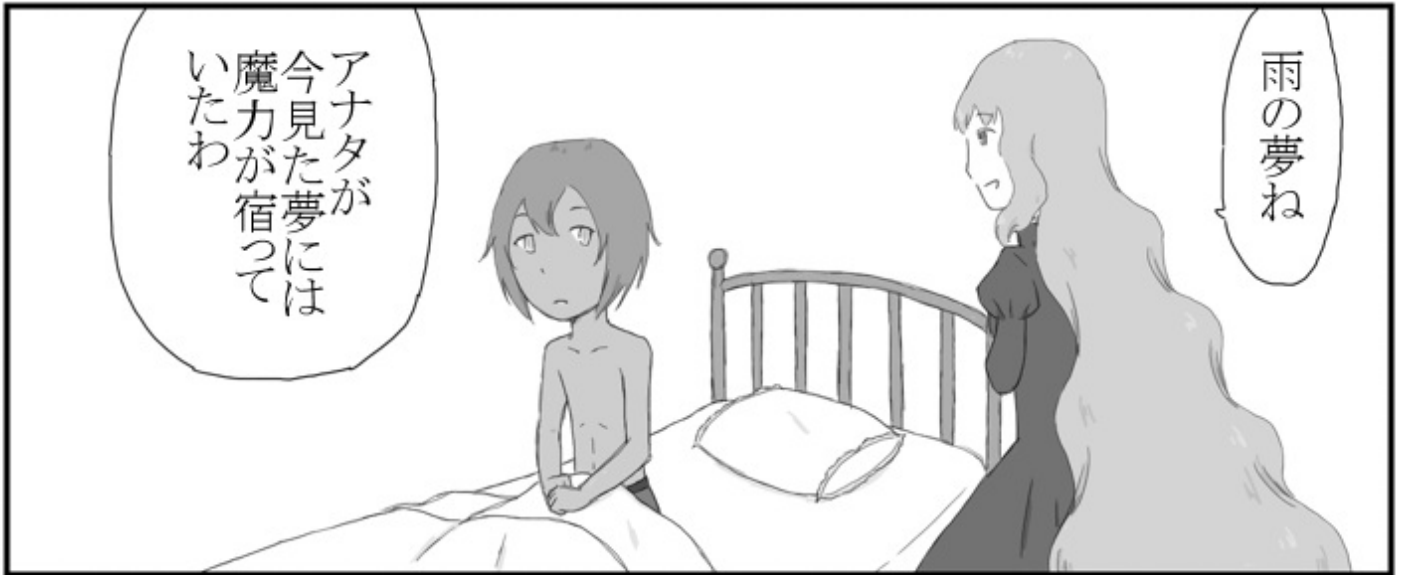
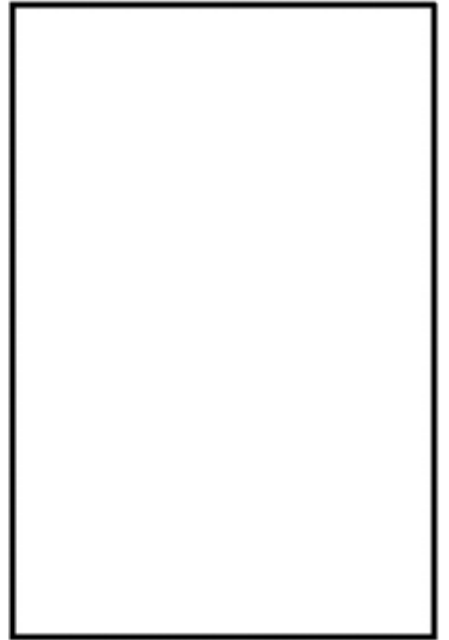
ワタシの事は

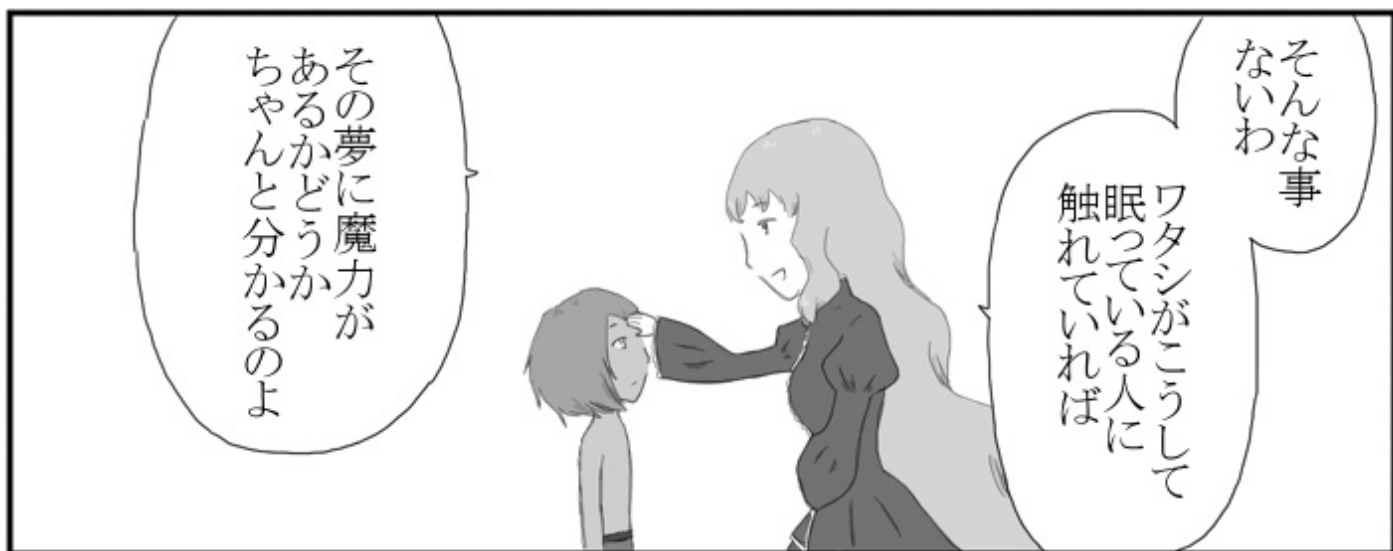
お師匠か
呼んでね？

...









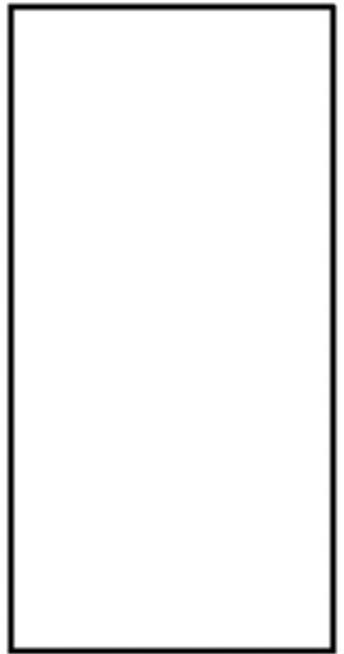
その言葉の
通り

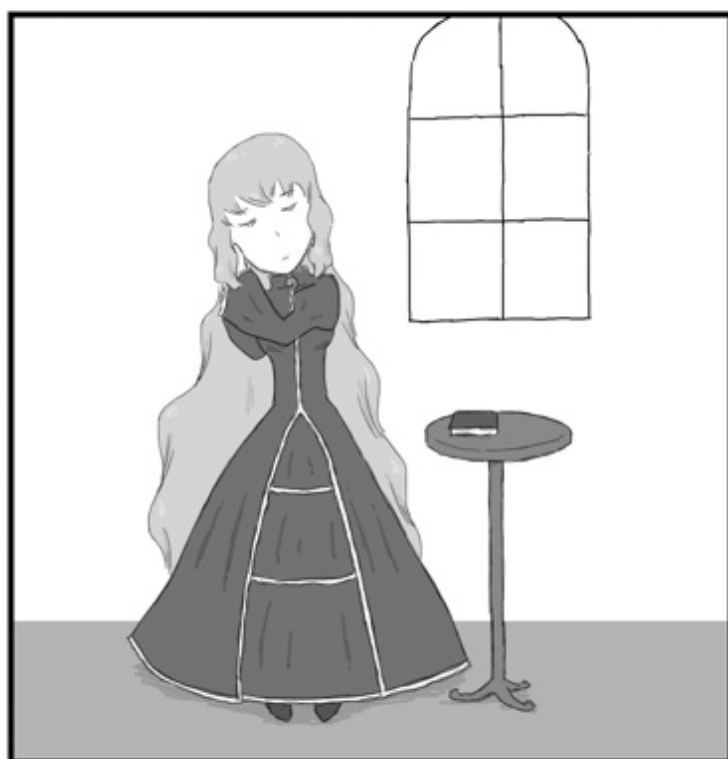
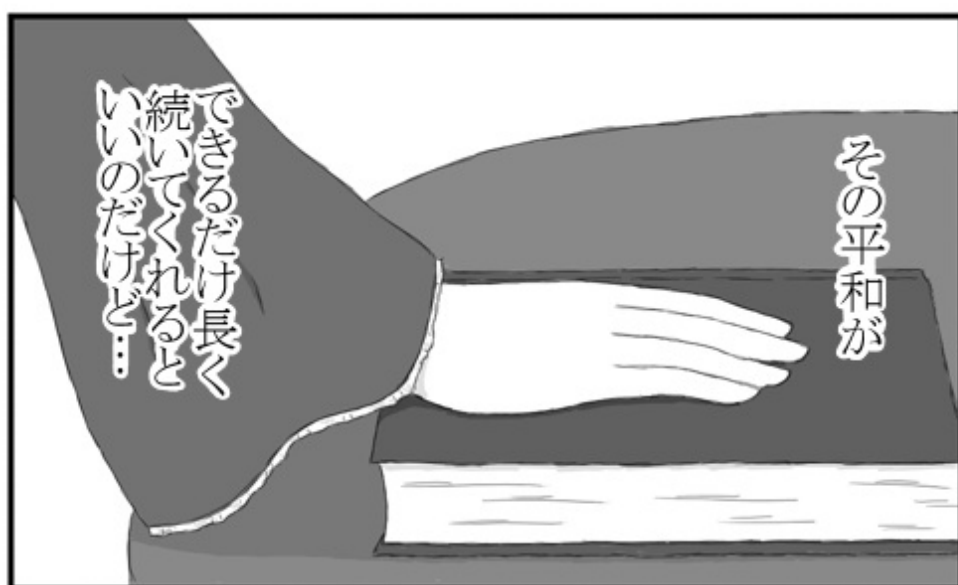
少年は
夢を見た

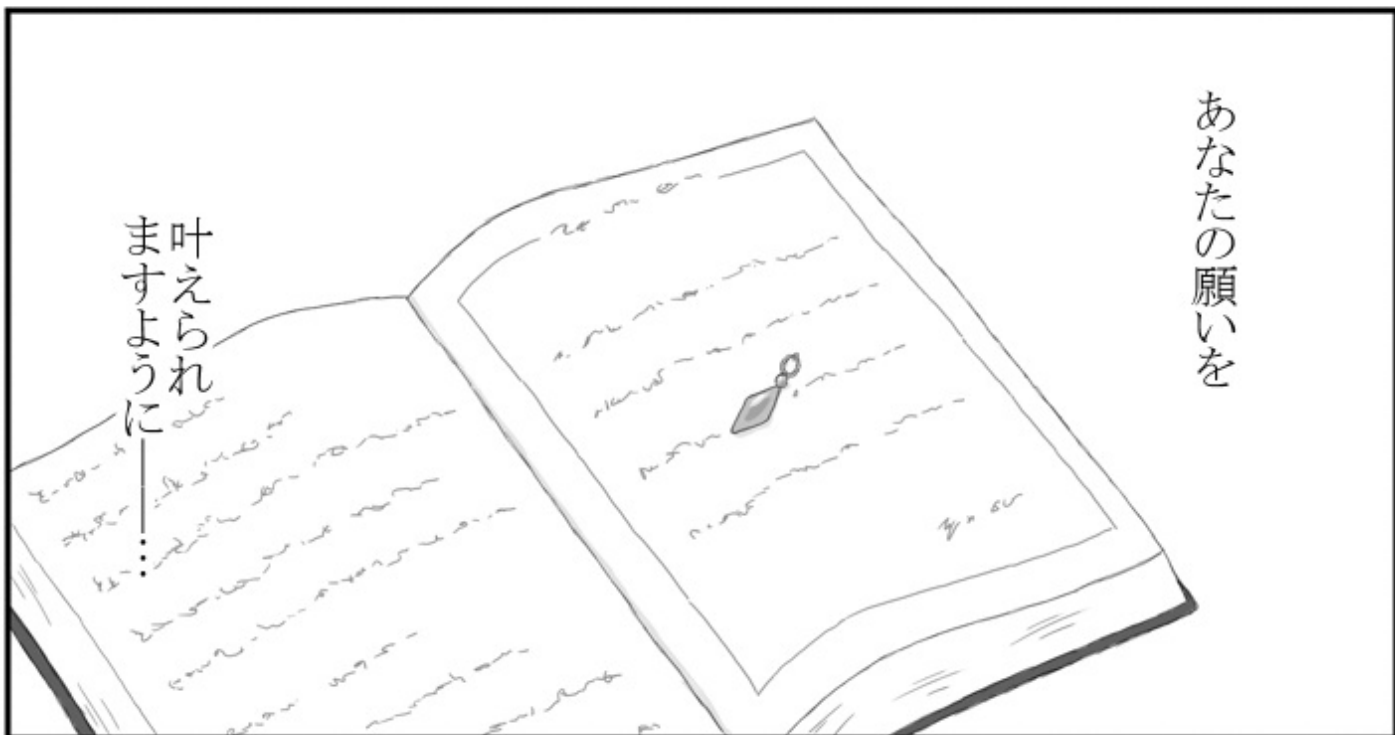
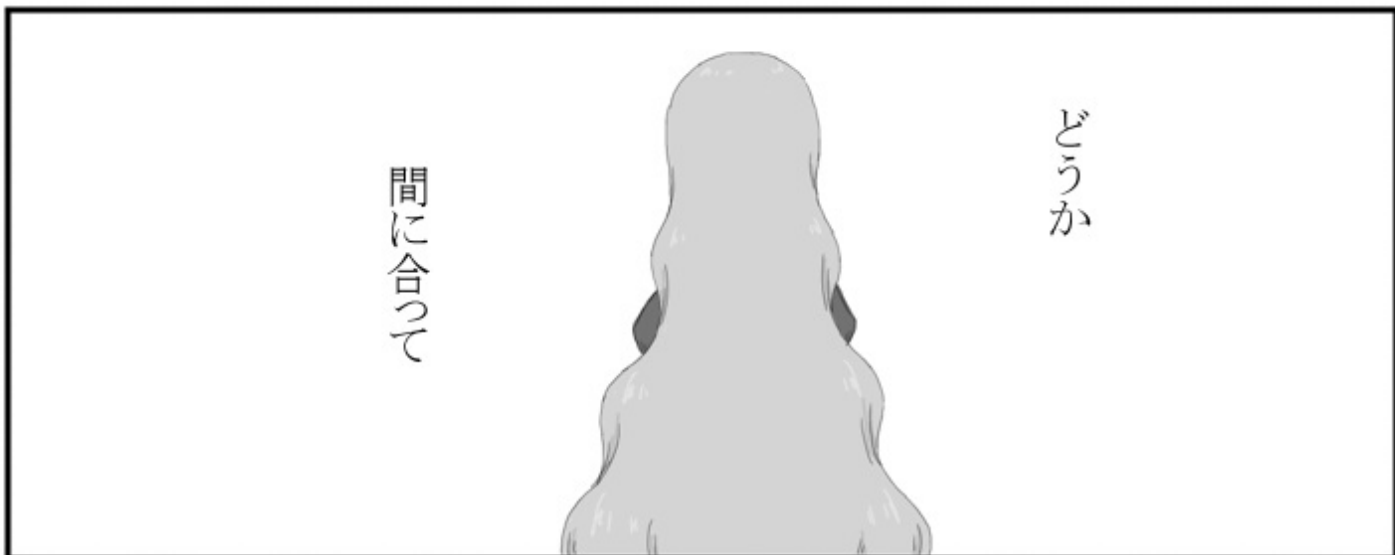
遠い
東の果て――

彼の故郷の
夢を

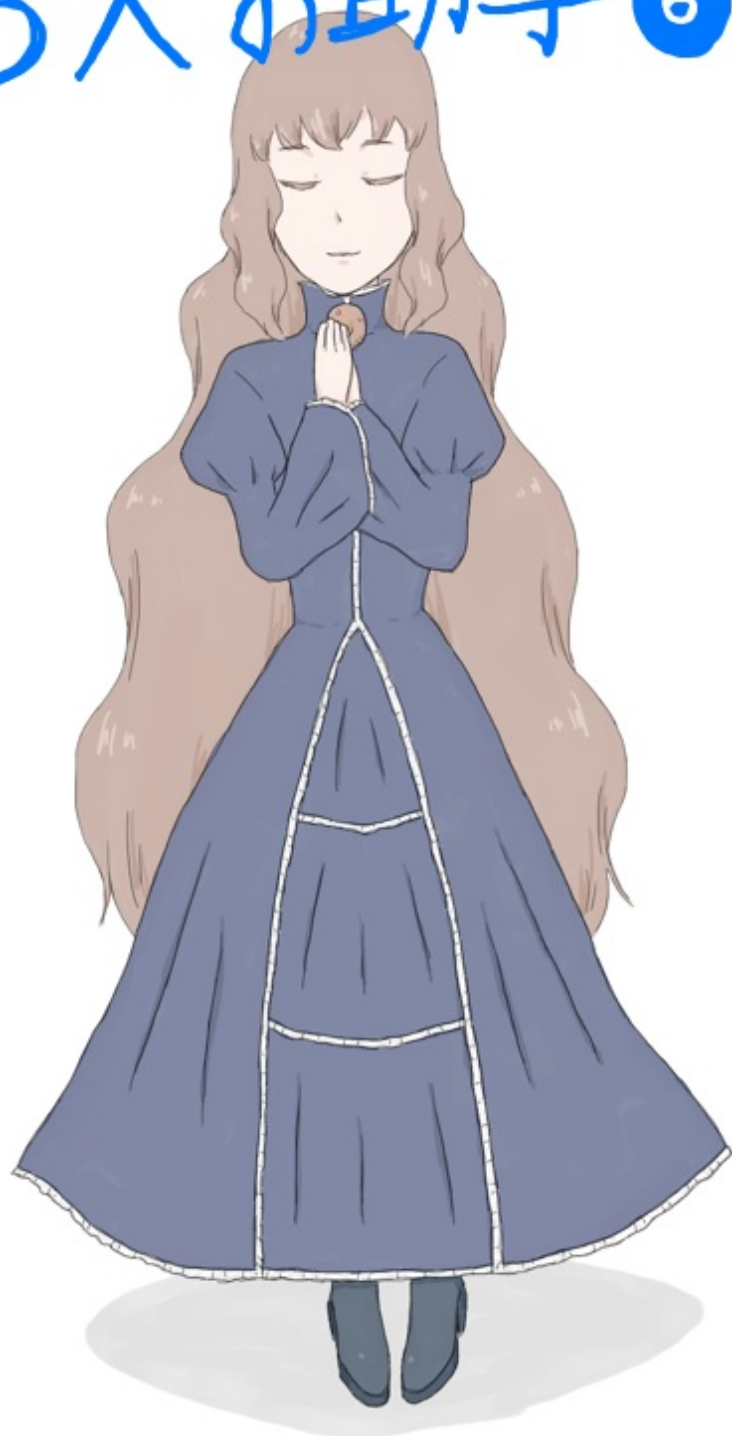








魔法使いと 3人の助手 ⑥







わっ隊長！



そうだねー



隊長…

？

魔法使いと3人の助手6 夢使いの物語①

<http://p.booklog.jp/book/101260>

著者 : umikingyo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/umikingyo/profile>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/101260>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ